

崇徳興仁



同窓会だより

NO.
19

2007年（平成19年）11月9日 崇徳学園同窓会本部発行 崇徳学園同窓会ホームページ <http://www.sotoku-ob.net>
崇徳学園同窓会事務局 / 〒733-8511 広島市西区楠木町4丁目15番13号 TEL(082)237-9331 FAX(082)230-2897



▲新校舎建築以前、長く親しまれた崇徳高等学校正門付近。校門から眺める体育館はなつかしい風景。（平成5年撮影「同窓会名簿」より）

毎年、同窓会総会が近づくと、学園に足を運ぶ回数が増えてきます。学園に入ってもいつも思うことは、何処の誰かもわからぬ私にでも生徒の皆さんは会おうと必ずきちんと目を向けて大きな声で「こんにちは！」とか「お疲れ様です！」と言う声をかけてください。どの生徒さんに会っても必ずと言って良いくらい心地よい挨拶が飛んできます。思わず「こんにちは！」と返すのですが、いつも先を越されてしまいます。親鸞聖人が『仏説無量寿経』の中で「真実の教え」として説かれた「崇徳興仁」原文は「崇徳興仁、務修礼讓」（そうとこうにん、むしゅらいじょう）との教えであります。その意味するところは「善い行いをしよう（崇徳）、思いやりの心をおこし（興仁）、つとめて礼儀を守り互いに譲り合う（務修礼讓）」であり、崇徳興仁は言うに及ばずまさに務修礼讓の教えが生徒の皆さんに深く届いているなと感じます。最近ではまともに挨拶も出来ない大人もそこかしこに見かけます。我が崇徳学園に学んで本当によかったと感じる瞬間です。

CONTENTS

大会会長あいさつ……………	(P.2)
高橋理事長あいさつ……………	(P.2)
鳴川校長あいさつ……………	(P.3)
同窓会この一年……………	(P.3)
今年度の合格状況……………	(P.4)
全国大会出場のクラブ紹介……………	(P.5)
Pick Up同窓生……………	(P.6)
がんばれ！崇徳健児……………	(P.8)

「顔の見える同窓会」を目指して



崇徳学園同窓会会長

大本 和 則氏

(昭和44年卒)

同窓会会長に就任し一年になりました。この間、副会長、監査、事務局、幹事の皆さんと同窓会の活性化について議論を重ねてきました。すぐには実行できないことも多くありますが、同窓会が充実した会となるよう一歩でも前進すべく今後とも検討して参りたいと思っております。

本年度は、高校総体においてボクシング部の青木貞頼さんがライトフライ級優勝、丸亀光さんがバンタム級準優勝、柔道部においては上川大樹さんが高校100kg超級優勝、中学体育大会において宇都宮光樹さんが中学81kg級優勝とすばらしい活躍をされ、軟式野球部も広島県秋季大会において準優勝と活躍されています。

また、OBである辻岡健司さんが京都大学大学院に進学され、「崇徳教社史の研究をされている記事が中国新聞に掲載されました。

スポーツや学問に限らずあらゆるジャンルにおいて崇徳学園の在校生、卒業生が活躍されている姿を見ますと素直にうれしく思います。

同窓会としては、将来同窓会に入会していただく在校生に対し、在学中から同窓会の存在をアピールする必要があると考えています。「顔の見える同窓会」を目指そうとしています。

PTAとの意見交換のための会合を行い、崇徳祭にも初参加しています。

崇徳祭では、同窓生である昭和四十四年卒業の落語家として活躍されている古今亭菊丸さんに在校生に対し講演をしていただきました。また、同窓会として崇徳祭の模擬店にも出店させていただきました。

崇徳祭に参加することでまずは同窓会の存在を示すことができたと思っております。崇徳祭へは、今後とも参加して行きたいと考えています。

同窓生の皆様におかれましては、崇徳学園に関心を持っていただき、同窓会総会にも一人でも多くの同窓生に参加していただきたいと願っております。そのためには、同窓生が参加しやすく、楽しい内容の同窓会総会にしなればならないと考えております。役員、幹事の皆様とともに同窓会の活動の充実を図るべく努力してまいりますので、同窓生の皆様におかれましては、ご理解をいただいたとき、同窓会に対するご協力、ご支援を何卒よろしくお願い致します。

大胆な改革が急務です



崇徳学園理事長

高橋 乗 宣氏

(昭和33年卒)

今年も格別に暑い夏で、残暑もたいへんな厳しさでしたが、さすがにこの時期ともなると澄みきった青空が爽やかに拡がり、深まりゆく秋が実感されます。そして、崇徳学園の同窓会が開催される時期でもあります。懐かしい顔ぶれが相集い、楽しい会話がはずみます。

同窓会の皆様には、引き続きご健闘のご活躍のこととお慶び申し上げます。さて、理事会や評議会、さらには毎月の企画会議等を主宰するために母校を訪れていますが、学園の雰囲気は引き続き活気に満ち、明るさが増しております。生徒たちが大きな声で挨拶を送ってくれると、こちらまで若返るような爽やかさを感じます。鳴川校長ほか、教職員の方々のたゆまぬご努力のおかげだと、こころより感謝している次第です。

文武ともに往年の力が蘇生してきていることは、なんといつても心強い限りです。今年の進学実績も、国公立大、有名私立大に大量の合格者を送っております。昨年に引き続いている実績であり、安定的な実力になってきているものと喜んでおります。またスポーツでは、インターハイでも国体でも、後輩達が大いに活躍しています。今年もボクシングや柔道といった個人競技の活躍が際立ち、野球、バレーボールといったチーム競技でいまひとつ結果を出せていないのが気掛かりではありますが、選手達の力は傑出していきますので、来期には大いに期待できるものと考えているところであります。

一方、少子化の影響は予想以上に厳しいものがあります。学園の近くに競合校が出現したこと、さらには公立高校の激しい巻き返しの影響などで、今年度の入学者は昨年に続いて大幅な定員割れとなり、総生徒数が1500人を割り込んでしまいました。経営の面からみるとかつてなく厳しい状況となっております。消えかねないという、深刻な状況が俄に現実的なものになりました。こうした厳しい環境の中で学園が生き残っていくための方途を探り出し、着実に実行していくことが急務となっております。崇徳の伝統を踏み外さないようにしながら、教育内容をさらに多様化するとか、男女共学を視野に入れるなど、思い切った改革に取り組まねばならないと考えております。

同窓の皆様には、今後とも引き続き熱いご支援をお願いいたします。ととも、機会があれば是非とも母校を訪ねたり、試合の応援に行くなどして、後輩たちを大いに激励していただきたいと思いますものと念願しております。

学園の取り組みについて



崇徳中・高等学校長
鳴川 則弘氏

長月も今日はつごもり、伝承では神無月の明日から出雲の国で神々の会議が開かれるという事です。すっかり秋も深まって、澄み渡った空気が肌心地よく感じられるこの時期に、今年も同窓会総会が催されますこと御同慶に堪えませぬ。心からお祝いを申し上げます。

さて、その神々が住まいされ、また御仏のましますこの国には、心に潤いのある暮らしが永く受け継がれてきました。時には、戦乱の世、混乱の歴史が刻まれた時代もありましたが、私たちに受け伝えられた流れは、御仏に生かされる生活、神々ともある暮らしであったと言えましよう。

その流れが、近年、大きく変化してきました。物への願い、豊さへの渴望が文明進歩の原動力であることは否めませんが、そこに内在した剥き出しの欲望や残忍なエゴが闊歩することになったのも確かです。事実として、執着することの愚かさ、その調和の大事さが説かれなくなりました。

その社会は、教育に「再生」を求めています。人間の英知や豊かな感性が世界に広がること、心ある人たちがはいっそう望まれるようになり、時代が転換期にあるものの、伝統と歴史を堅く守った教育実践を続けております。崇徳の建学の精神たる「心の豊かさ」と潤いを養い、勉学に努力を傾け、また身体を鍛え健康な日々を過ごすことへの「精進」は、今日も変わることなく確かな足取りで受け継がれ実践されております。

このような日々の積み重ねから、この一年間も、特筆すべき大きな成果をあげることができました。ボクシング・ライトフライ級の優勝、パンタム級での入賞、柔道では高校・中学校のダブル優勝など、大いに誇ることでできるスポーツでの成果です。一方、学業面の成果たる進学状況も、国立大学合格者が五十八名と昨年を十六名上回り、難関私大への合格も首都圏、近畿圏の両地域において安定的に高い実績を残すことができました。生徒諸君の日々の学業の積み重ねが、教職員の手厚い指導に支えられつつ、少しずつ実を結んだものと思われ、この指導に支えられつつ、指導を続けてまいりました。「いのちを大切にすることが喜び、また「あいさつ」指導などが、生徒一人一人へと浸透していることが喜ばれます。

このように崇徳が堅実な歩を進めることができ、ひとえにOBのみなさまのご支援をいただいたことと厚く御礼申し上げます。総会に

当り、今年も学園の近況をご報告申し上げて、お祝いのご挨拶に替えさせていただきます。

同窓生諸兄におかれましては、今後ますますのご指導ご鞭撻をお寄せいただき、暖かく学園を見守り下さいます。一段のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

同窓会この一年



- 【平成18年】
 - 11月10日 平成十八年度同窓会総会及び懇親会 (於・ホテルグランヴィア広島)
 - ・平成十七年度活動報告
 - ・平成十七年度収支決算(案)の承認
 - ・平成十八年度収支予算(案)の承認
 - ・報恩講・学園関係物故者追悼法要 (出席/齋藤・鶴岡・龍永副会長)
 - 【平成19年】
 - 2月22日 正副会長会議 (於・崇徳学園本館応接室)
 - 2月28日 高等学校卒業生表彰式「優秀クラブ」及び個人に記念品贈呈 (於・崇徳学園体育館/大本会長)
 - 3月1日 崇徳高等学校卒業式 (於・崇徳学園体育館)
 - (出席/齋藤・河野・鶴岡副会長・清水・中川監査)
 - 3月7日 正副会長役員運営会議 (於・ホテルJALシティ)
 - 4月4日 正副会長会議 (於・崇徳学園本館応接室)
 - 4月7日 崇徳中学校・高等学校入学式 (於・崇徳学園体育館・講堂)
 - (出席/大本会長・齋藤・河野・鶴岡副会長・清水・中川監査)
 - 4月19日 崇徳学園歓迎会 (於・崇徳学園)
 - 5月2日 総務担当委員会 (於・広島ガリデンパレス)
 - (出席/大本会長・齋藤・小早副会長・清水・中川監査)
 - 5月10日 平成十八年度同窓会懇親会(広島) (於・ホテルグランヴィア広島)
 - 5月15日 正副会長会議・当番幹事懇話会 (出席/清水・中川監査)
 - ・新旧幹事引き継ぎ会 (於・ホテルグランヴィア広島)
 - 5月21日 宗祖降誕会・開校記念日 (出席/齋藤・河野・鶴岡副会長)
 - 6月16日 崇徳学園PTA・同窓会懇談会 (於・広島ガリデンパレス)
 - 7月6・7日 崇徳学園同窓会関東支部総会 (於・東京・ホテル機山館)
 - (出席/大本会長・田部事務局)
 - 5月21日 宗祖降誕会・開校記念日 (出席/齋藤・河野・鶴岡副会長)
 - 6月16日 崇徳学園PTA・同窓会懇談会 (於・広島ガリデンパレス)
 - 7月6・7日 崇徳学園同窓会関東支部総会 (於・東京・ホテル機山館)
 - (出席/大本会長・田部事務局)
 - 5月21日 宗祖降誕会・開校記念日 (出席/齋藤・河野・鶴岡副会長)
 - 6月16日 崇徳学園PTA・同窓会懇談会 (於・広島ガリデンパレス)
 - 7月6・7日 崇徳学園同窓会関東支部総会 (於・東京・ホテル機山館)
 - (出席/大本会長・田部事務局)
 - 7月9日 正副会長会議(於・崇徳学園本館応接室)
 - 7月17日 正副会長会議(於・崇徳学園本館応接室)
 - 7月26日 総会担当委員会 (於・崇徳学園本館会議室)
 - (於・広島全日空ホテル)
 - 7月31日 正副会長会議(於・崇徳学園本館応接室)
 - 8月6日 原爆忌(出席/大本会長・森正副会長)
 - 8月17日 幹事会(於・RCC文化センター)
 - 8月30日 正副会長会議(於・崇徳学園本館応接室)
 - 9月15日 総会担当委員会 (於・広島全日空ホテル)
 - 全国高校総体ボクシング・柔道 (於・広島全日空ホテル)
 - 9月27日 総会担当委員会 (於・広島全日空ホテル)
 - (出席/大本会長・齋藤・河野・鶴岡副会長・清水・中川監査)
 - 9月28日 正副会長会議(於・崇徳学園本館応接室)
 - 9月28日 幹事会(於・崇徳学園本館会議室)
 - 10月5日 同窓会奨学生採用伝達式 (於・崇徳学園本館理事長室)
 - (出席/大本会長)
 - 10月22日 正副会長会議(於・崇徳学園本館応接室)
 - 10月25日 総会担当委員会 (於・崇徳学園本館会議室)
 - (於・広島全日空ホテル)
 - 11月1日 平成十八年度同窓会会計監査 (出席/清水・中川監査)
 - 11月3日 崇徳祭・出店参加 (出席/齋藤・河野・鶴岡副会長・中川監査)
 - (出席/大本会長・齋藤・小早副会長・清水・中川監査)
 - 11月5日 正副会長会議(於・RCC文化センター)
 - 幹事会(於・RCC文化センター)



崇徳学園同窓生の皆さんがさまざまな業界や地域で活躍されています。今回も一部をご紹介します。

牧場からジェラート、レストラン、手作りチーズ工房。夢を追いかけてます。



東広島市福富町で牧場経営の後継者として乳製品の生産から、新たな付加価値を追い求めた多角化を進め、その「夢」が人を集めていく。

これまでの様々な人との出会いが、新しい夢へ向けて大きな勇気を与えてくれました。
ラ・クッチーナカドーレ前で
上田さん

上田敏英さん(昭和58年卒)はめくまれた自然の中で酪農経営の発展を目指して1998年に牧場内で取れたの新鮮素材を使ったジェラートショップ、カドーレをオープンし、2002年にはフランス田舎風イメージの洋食レストラン・クッチーナカドーレをオープン。マスクミ等での取材や、訪れた女性客からの「口コミ」でまたたく間に話題となり、地元、東広島市を始め広島、呉、三原、尾道、福山など県内から家族連れや若いカップルなどが気軽にドライブで訪れる。

また、2004年にはチーズ工房「フェルミエ・カドーレ」をオ



ープン。手作り生産したチーズを販売する傍ら「体験学習メニュー」として、バターやソーセージ等を作るを体験(要予約)や、牧場を解し哺乳・搾乳など自然や乳牛とのふれあい楽しめる環境の提供も行っている。すでに子どもを対象としたグループの体験学習も受入れており新しいコンセプトの牧場としても注目をされている。

休日は都会を離れ、上ノ原牧場の自然豊かな空気を満喫し、上田さんの心こもった料理を頂き心身ともにリフレッシュするのも素敵な余暇の過ごし方では…。



にリンも美味しいわ
牧場のオードブル
方よ、美味い
地味も、美味しい
田舎ブームの提供
舎タイムもごせ
風スリイもごせ
仏タイムもごせ
南仏タイムもごせ
南仏タイムもごせ

●上ノ原牧場

東広島市福富町上竹仁605
電話(082)43553018
上田敏英(昭和58年卒)

コンテナトランク利用で、倉庫のイメージ革命！。レンタルボックスを展開中。



広島市を中心に土地の有効利用にコンテナボックスを利用し、レンタル方式のトランク倉庫としてわずか3年間で県内に43箇所、管理ボックス数が1500室と着実に実績を伸ばしているのが、アイトランク(「企画グループ」)の笹川陽介さん(昭和56年卒)。

本業は宅地建物取引業で、主に商業施設の誘致がメインであったが関東地区でレンタルボックスが急速に増加していることに着目し、不動産業で培ったノウハウを生かし積極的に展開を進めている。

また7月に広島産業会館で行われた「賃貸住宅フェア 2007 in 広島」に出展し、会場に原物のコンテナを展示し来場者の注目を集めていた。コンテナは手軽な契約での月極レンタル方式が人気を呼び、現在、法人や個人からの潜在的な利用需要があり、トランクの大きさも用途に応じた選択が可能に設置され、それぞれ顧客のニーズにマッチしているようだ。

主なレンタルの利用目的としては、企業利用者は「手狭なオフィスに収納しきれない書類や製品在庫の保管」、個人利用者は「レジャー



アイトランクキャラクタートランク

用品や転居時の家財保管」など、身近なレンタル感覚とコスト面の手頃さを利用者にもアピールして契約の増加を計っている。

笹川さんは崇徳高校時代は硬式野球部で投手として活躍。卒業後は神奈川大学に進学して野球を続けた。野球を通じて「団体競技での組織作りの大切さ」また、卒業後に柔道と出会い「個人競技の厳しさ」をスポーツを通して学んだことが、現在の仕事へのエネルギーになっていっているようだ。

現在、長男が崇徳高校の柔道部に在籍するなど「崇徳」に深く関わることもなつたことにご縁と感謝を感じている。

今後の事業の目標は、2年後に広島県内に現場を100箇所、管理ボックス数を3000までに引き上げたことと意気込んでい



アイトランク統括責任者(左)と、社長(右)の小林裕始さん(左)と、二人は高校・大学で野球部の同期生。土地の相互的な有効利用の相相談や提案も推進中。

●企画グループ

広島市南区大須賀町14-12
電話(082)23664723
笹川 陽介(昭和56年卒)

広島から全国へ、

「地産地消」のこだわり商品。

お好み焼きソース「広島ぢゃけん」が大人気！

昨年8月にテレビの人気料理番組で取り上げられて以来、広島のみならず東京など関東地方でも「地産地消」のこだわり商品として知名度が高まり、全国より注文が舞込み、フル生産が続いている。

これは社長の大地克伸さん(昭和30年卒)が長年続けている広島産の「良いものを商品に」の強い信念が底辺にあるようだ。「生産者の顔が見えて、消費者に元氣になってもらいたい」との思いが商品に込められており、長年の積み重ねが食に対する厳し目を持つ消費者の支持を受けている。これが幅広く強い人気を受けている要因といえる。

そんな同社は今年2月に創業80周年を迎えた。主な自社製品には会社の歴史と共に歩んだ「食物酢」や、健康ブームで市場成長が期待される「飲む黒酢」とお好みソース「広島ぢゃけん」。新鮮な素材を使った「ドレッシング」など、厳選した材料を使った自信作が数多く揃っている。3月28日には中区広瀬町にお好み焼きのお店「広島ぢゃけん」をオープン。お好み焼きには広島産の新鮮な食材を使い高品質さを提供する。店内には黒酢の試飲コーナーも併設し、自社製品を取り扱うアンテナショップとしての役割も担う。これからは、食生活を支える企業としてセンナリが取り組む「地産地消で良い材料を生かし、消費者が安心して食を楽しむことができる商品の提供」という方針に変わりはなく、また今日では当然となった衛生管理面や食材などの自然環境保護の観点から見直しの推進など、いち早く積極的な取り組みを行ってきた成果にも評価が高い。



大人気！お好みソース「広島ぢゃけん」



●センナリ株式会社

広島市安佐北区安佐町久地2683-255

電話(085)81013000

- 大地 克伸 (昭和30年卒)
- 大地 克史 (昭和51年卒)
- 大地 克也 (昭和54年卒)

現在は、長男である克史専務(昭和51年卒)が販売拠点となる東京営業所で販路の拡大に当たり、次男の克也常務(54年卒)が本社工場で生産管理を担当する。まさに「崇徳OB一家」がスクラムを組んだチャレンジが目が離せられない。

ハーフタイム

初代のつもりで



1月に創業一三〇周年を迎えた、本通商店街の永井紙店。もともと広島藩主・浅野家の御用商人として米と和紙を扱っていた。同家が近江長浜にあった頃から、維新後の廢藩置縣で東京へ移住するまでの約五〇年余り仕えたという。以後、米をやめ、和紙と新たに始めた洋紙に商いを絞ったのが明治10年。一八代目の永井健二社長は、

「一階にあった店舗は二〇年前に二階へ、〇6年6月からは三階に移りました。それにもかかわらず、うちの紙専門店としての伝統のおかげでしようか、お客様は頻りに訪れて下さいます。本当にありがたく、感謝の気持ちでいっぱいです」

本通かいわいでは、コンビニなど界外資本の店が並び、ここ二〇年の間にその様相は大きく変わった。「専門店が年々減ってきており、我々老舗が頑張らないと、との思いが強いですね。気持ちは初代のつもりです。『正直の頭に神宿る』の言葉そのままに信用、信頼を得られる店作りをし、一九代目へつなげていきたい」

永井健二さん/昭和42年卒 (株)永井紙店 社長
平成19年2月15日 広島経済レポート

崇徳学園同窓会役員名簿

会長	長 則太郎 (S44年卒)
副会長	和耕佳健康秀 (S31年卒)
副会長	本正野井藤川野岡飼水川部本 (S41年卒)
副会長	大森岡永齋小河松鶴龍西清中田樽 (S42年卒)
副会長	早川野岡飼水川部本 (S44年卒)
副会長	早川野岡飼水川部本 (S48年卒)
副会長	早川野岡飼水川部本 (S55年卒)
副会長	早川野岡飼水川部本 (H1年卒)
副会長	早川野岡飼水川部本 (H3年卒)
副会長	早川野岡飼水川部本 (H5年卒)
副会長	早川野岡飼水川部本 (H6年卒)
副会長	早川野岡飼水川部本 (S46年卒)
副会長	早川野岡飼水川部本 (S54年卒)
副会長	早川野岡飼水川部本 (S49年卒)
副会長	早川野岡飼水川部本 (H2年卒)

崇徳祭

同窓会が学園祭に参加！

十一月三日(祝) 於 崇徳学園



毎年秋の学園恒例行事である「崇徳祭」が一般公開となる三日(祝)、同窓会役員が模擬店の出店を行った。PTAの皆さんの近くに場所を構え「スパイシーチキン串」の屋台販売を行い、学園祭を通して在校生や学校関係者との交流を図った。同窓会としては、「崇徳祭」には初参加となった。想像以上に大勢の来校者があり、生徒達も趣向をこらした活気のある盛況な、「崇徳祭」であった。今回、同窓会が生徒と顔の見える交流ができたことは、今後への有意義な一日となった。

これからも、同窓会としてできる限り学園の行事に積極的に参加し、生徒、教職員、保護者皆さんとの交流をおこない、同窓会への理解を深め、果たすべく役割を果たしていきたい。

●●ボクシング・柔道競技優勝報告会●●



(左より) 松尾監督、信本コーチ、丸亀光君、青木貞頼君。

ボクシング競技はライトフライ級で全国優勝を成し遂げた青木貞頼君は一年生。サウスポーの期待の選手である。3歳時父親の指導でボクシングを始めた。二人三脚で栄冠を勝ち取った。これからますます将来が期待される。

バンタム級で準優勝の丸亀光君は実力伯仲同士の決勝対決での敗退だった。優勝する実力がありながら地力を出し切れず惜敗。本人も悔しい準優勝と話し、この悔しさをバネにしてこれからの競技生活に生かしてほしい。



(左より) 宇都宮光樹君、上川大樹君、加美監督、中本顧問(中学校)、元石顧問(高校)。

高校の柔道競技は100Kg超級で、上川大樹君が、また中学校から81Kg級で宇都宮光樹君が全国優勝した。上川君は強剛がひしめく重量級を勝ち一本勝ちで優勝した。「今後も練習を重ね強くなりオリンピックを目指したい」と抱負を語った。

中学の全国優勝の宇都宮君は、階級を一つ上げて全国大会の初挑戦となった。最終、積極的に攻める柔道と心掛け見事に日本一の座を掴んだ。「まだ上を目指して頑張ります」と中学生らしく素直に感謝の気持ちを話した。

夏の全国高等学校総合体育大会及び、全国中学校体育大会の個人競技で全国優勝を遂げたボクシング部、柔道部の優勝・入賞報告会が行われた。

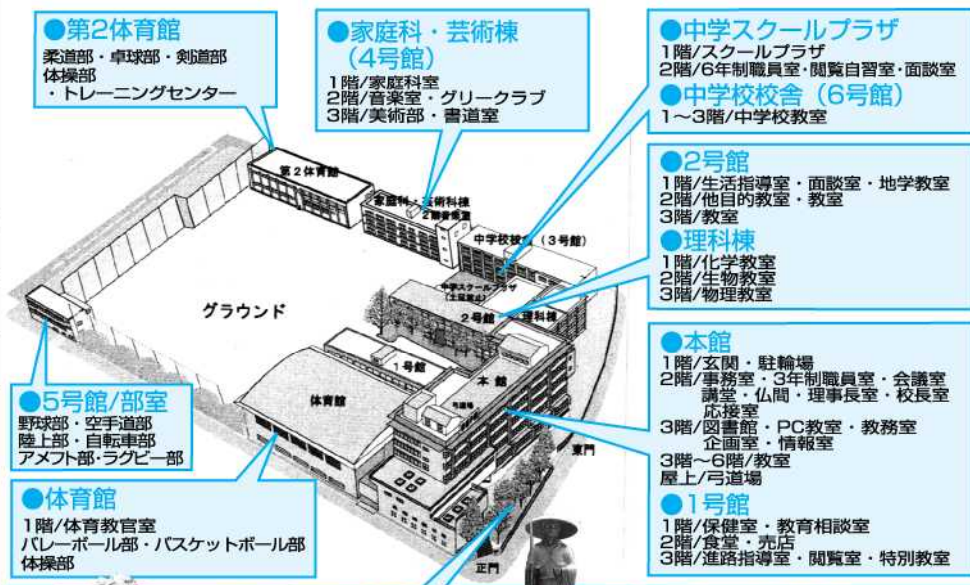
高
中
ガ
ン
バ
レ
！
崇
徳
健
児
！

平成十九年九月十五日、広島ガールズデンパレスで全国高等学校総合体育大会「ボクシング競技優勝・入賞」「柔道競技優勝」全国中学校体育大会「柔道競技優勝」報告会が来賓、広島県ボクシング連盟、広島県・広島地区柔道連盟および学園関係者多数出席のもと盛大に行われた。

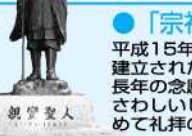
Back to the 崇徳学園

毎年同窓会名簿を発行してありますが、近年は個人情報保護法の関係で、長年伝承されてきた同窓会名簿の編纂は大変な作業であり、かつ、同窓生の交流の機会を失わないよう、鋭意全力を尽くしてまいりました。今年も同窓生の交流の機会を失わないよう、鋭意全力を尽くしてまいりました。今年も同窓生の交流の機会を失わないよう、鋭意全力を尽くしてまいりました。

編集後記



●「説法獅子吼」の像
正門を入ると旧校舎の時代から崇徳学園の正門に迫力満点。シンボリック存在のあった「説法獅子吼」像は今も崇徳生を見つめている。



●「宗祖親鸞聖人像」
平成15年5月には「宗祖親鸞聖人像」が建立された。浄土真宗の宗門校としては長年の念願であり、崇徳学園の正門にふさわしい立派なお姿に思わず足を止めて礼拝の思いに。